



JGN Members' Journal *Gardeners' Spring*

JGN メンバース ジャーナル『ガーデナーの泉』（2020年2月26日発行）

思うまま、軽やかに書き綴るメールマガジン『ガーデナーの泉』がスタートしました。
従来のJGNメールマガジンとは別に、毎月2回、2週連続でお送りしていく予定です。
今回お届けするのは、造園家の山本紀久さんからの「もり」のお話〈その2〉。
心に残るストーリーを『ガーデナーの泉』でお届けします。

◆里や都市の「杜」を再生する 〈その2〉◆

～JGN 会員限定メルマガ記事～

造園家、JGN 創立メンバー 山本 紀久

前回は、里や都市の「杜」が人にとって‘衣食住の素材の提供’‘水源涵養や土砂流失の防止’‘防風や防塵’など、人が生きるために欠かせない本能に刷り込まれた根源的なもの。‘生態系保全’‘生物多様性保全’‘気温上昇緩和’など、昨今、人類の生存にとってその必要が説かれているもの。‘遮蔽’‘庇陰’‘レクリエーション’‘鑑賞’など、日ごろの生活の中で精神衛生上の恩恵を受けるもの。の三つがあり、それらが一体となった地域に根差した「杜」づくりの大切さを確認した。

今回は、杜の恩恵を、日々の生活の中で感じてもらうために施設を木立ちで包み込んだ、宇和島市の「介護老人福祉施設‘あさひ苑’」の事例を御紹介する。



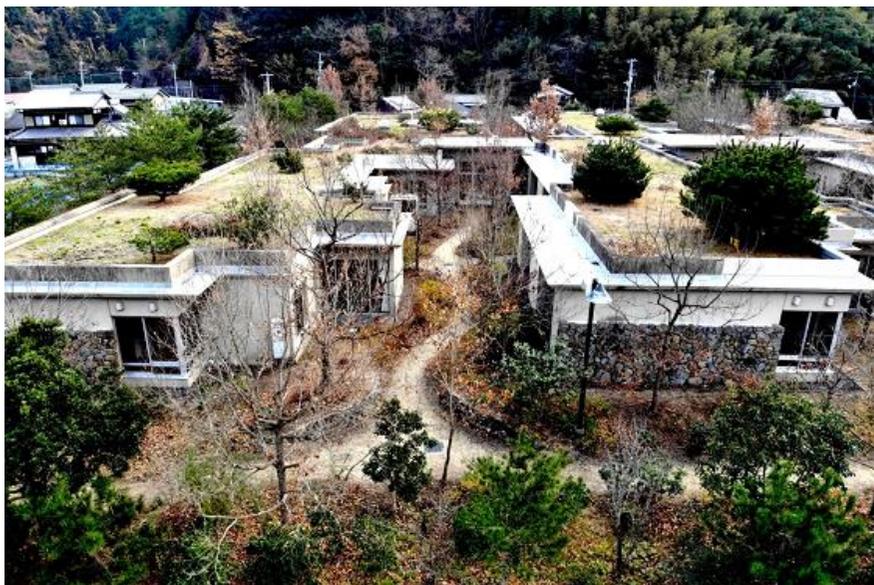
植栽（2006年12月）は、外周に骨格となるアカマツ、棟間にはコナラとクヌギの幼木を主体に配植



約10年後の棟間の樹群

ここでのみどりづくりの目標は、日々刻々移り変わる四季の風景を、施設内のどこからも見られるように‘施設全体をアカマツとコナラ、クヌギ、ヤマザクラなどの故郷の雑木林で覆う’というもので、スタートは全て地域苗木からの植栽とした。

2007年1月に植栽してから今年で13年になるが、その間に成長した樹木は、子供たちの秋のお目当てである大きなどんぐりを落とし、間引いた檜木から出たシイタケが食卓を潤し、巣箱にはシジュウカラが、ササやぶには野兎の子供・・・定例の句会での季語は周りにあふれている・・・今この杜は、施設の住民やそこで働く職員、また時折そこを動植物との触れ合いの場として訪れる子供たちにとって、自然からの心地よい刺激と感動を与えてくれる大切な場となっている。



冬は室内に光が入り、夏は明るい木陰を提供する落葉樹は、四季折々様々に変化して年間を通して住人や職員たちを飽きさせない。また、薄層の屋上に植栽したマツは樹高は低いが、雨水を受け止めて太くがっしりと育ち周囲の山々の風景に馴染んでいる



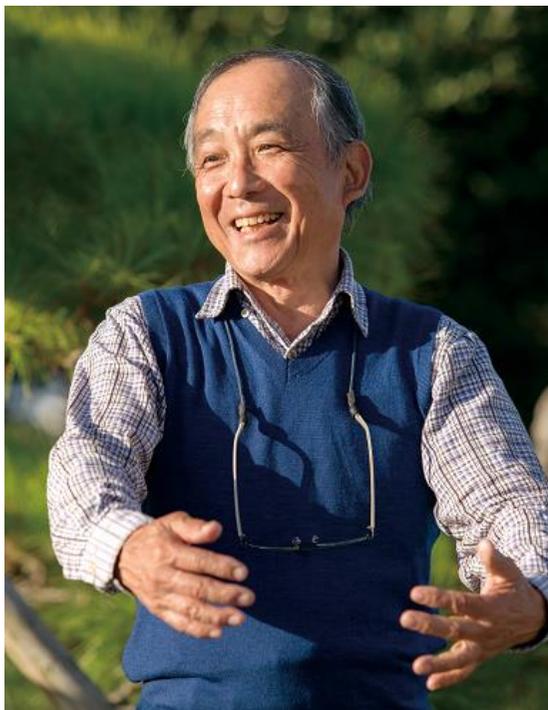
幹周 60 cm以上に育ったクヌギの周りには、次世代を受け継ぐ多くの実生苗が育っている



過密化した棟間のクヌギは間引き、それを楯木にしたクヌギからは沢山のシイタケが採れ、それらは食卓に・・・



平屋建てとし、どここの部屋からも林を通して自分たちが馴染んできた地域の風景が透けて見えるように、建築とランドスケープがコラボ・・・



山本 紀久(やまもと のりひさ)

1963年東京農業大学造園科卒業後第一園芸造園部に入社、1973年愛植物設計事務所設立、代表取締役社長を経て現在会長。

(受賞)黄綬褒章、「造園植栽術」著作で日本造園学会特別賞、日本造園学会上原啓二賞

(著書)街路樹/技報堂出版、造園植栽術/彰国社

(資格)「技術士」、「RLA フェロー」

(主な仕事)「東京ディズニーランド」「八景島シーパラダイス」「沖縄県総合運動公園」「海洋博公園熱帯ドリームセンター、郷土村・おもろそうし園」などの植栽設計・監理

※山本紀久さんの情報はガデネットで→<https://gadenet.jp/norihisayamamoto>

〒112-0013 東京都文京区音羽 1-17-11 花和ビル802
一般社団法人 ジャパン・ガーデナーズ・ネットワーク
TEL : 03-6902-9710 FAX : 03-6902-9720
土日祝祭日休 e-メール : info@gardenersnet.or.jp
ガデネット(Gadenet) <https://gadenet.jp/>
オフィシャルサイト <https://www.gardenersnet.or.jp/>
facebook <https://www.facebook.com/gardenersnet/>
Instagram <https://www.instagram.com/japangardenersnetwork/>

ガデネット

